

砂沼周辺地区都市再生整備計画事業 市民協働で新たなまちづくりの拠点整備 基本設計を策定しました



交流広場（仮）完成イメージ



砂沼エントランス（仮）完成イメージ

地域の活性化および市街地再生によるにぎわいのある街づくりを目標に事業を推進している、砂沼周辺地区都市再生整備計画事業の2つの拠点となる「砂沼エントランス（仮）」と「交流広場（仮）」の基本設計を策定しました。

本プランを作成する際には、市民の皆さまの声を事業に反映させるため、「まちづくりワークショップ」

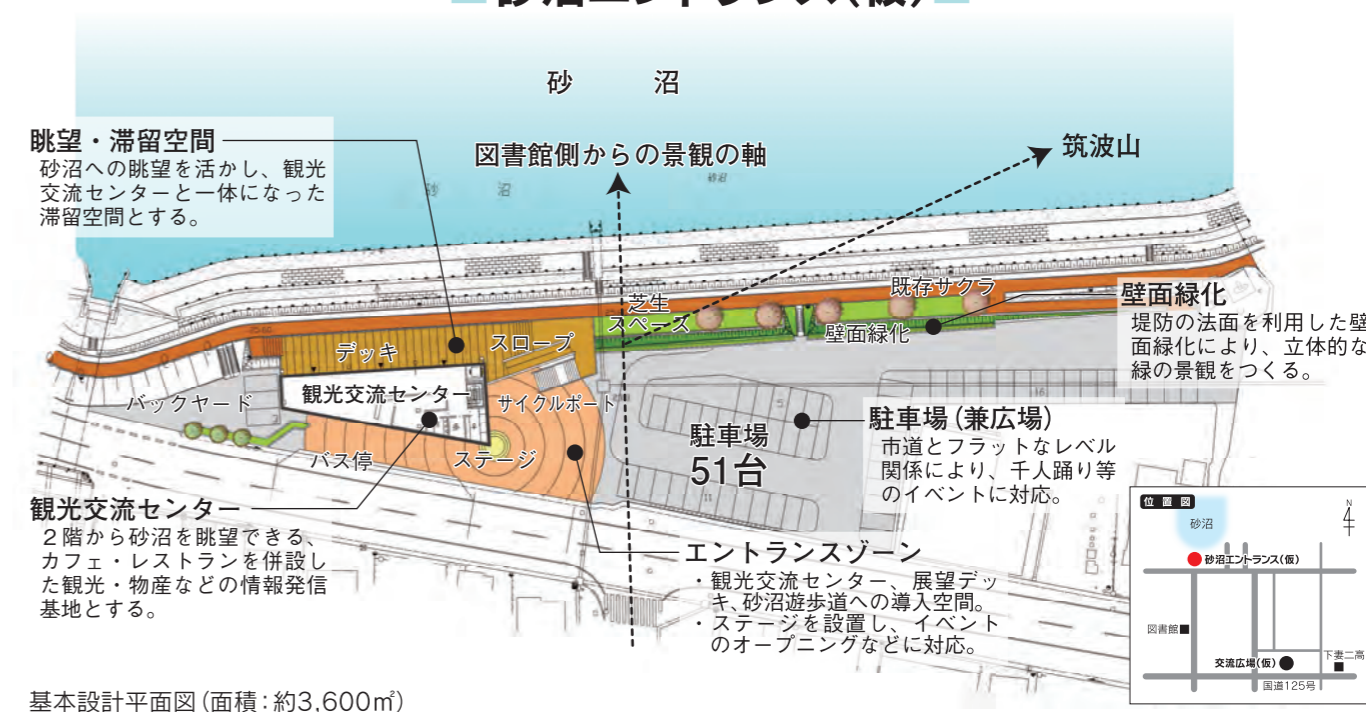
を開催し、商工・観光分野やまちづくりに関係する団体からの代表者、市内の高校生など、幅広く市民からご意見をいただくとともに、今後の新たなまちづくりの展開に期待する声が寄せられました。今回取りまとめた内容をもとに詳細設計を行い、平成28年度末の完成を目指します。

問い合わせ 都市整備課 ☎45-8128

交流広場（仮）



砂沼エントランス（仮）



まちづくりワークショップ参加者の声

グループ名
1班「健幸」
グループリーダー
江面 松男さん
(下妻丁・浦町)
まちづくりは「人づくり」

昔から、まちづくりは「人づくり」と言います。ぜひ、このワークショップを続けてください。年齢を超えて、業種を超えてのワークショップは大変な効果があります。続けることによって下妻に興味や関心を持った人たちが市民が「自分たちに何かできることはないだろうか」と役割を探し、動き出すきっかけになっています。

そして、前向きな若い人たちが楽しんで取り組み、動き出すと、おのずと運営のパリエーションが広がって、街のいいところ探しの人々が育ちます。

グループ名
2班「あきない」
グループリーダー
杉山 好昭さん
(下妻丁・三道地)
今の下妻を改めて見直す

私は三道地商店会会長の立場で参加しました。さまざまな立場、多世代の人々が集まり、みんなが今の下妻を改めて見直し、砂沼南岸、旧ジャスコ跡地の利用についてハード面とソフト面について若い世代の物の見方、中高年の方のご意見、たくさん話し合いました。ワークショップは全部で4回、1回毎に充実した内容になっていました。

決められた予算の中で、ワークショップでまとめたプランを実際に設計した時に、何が出来て、何が出来ないのか。その段階まで、一緒にやっていたら、みんなが納得できる、より良いプランになると思います。

グループ名
3班「2340」
グループリーダー
塚田 和司さん
(砂沼新田)
積極的な市民参加を呼び掛け

20～40代の現役世代で構成された3班では、就労・子育てを中心に話し合いました。「住みたいまち 暮らしたいまち」そんな、愛着を持ったまちづくりには、積極的な市民参加を呼び掛けながら、共に作り上げることが必要不可欠です。

簡単な施設運営など、協働できる部分を官民一体で取り組み、当該施設が市民協働のシンボルになるようにと考えています。引き続き、私たち市民の関わり方について、市民主導で協議を重ねているところです。

グループ名
4班「Hop・Step・Youngers」
グループリーダー
矢島 匠さん
(下妻丙・大明)
高校生の目線から発信

僕は、二拠点の整備とワークショップに参加し、高校生の目線から意見を発信することができて良かったです。

また、多面的な考えに触れることで都市を「創る」ことの難しさ、そしてそれ以上のやりがいと楽しさを知るためのとても有意義な機会となりました。

今後のまちづくりでは、この二拠点が人の流れの中心となり、下妻市全体の発展につながっていくといいと思います。

まちづくりワークショップ参加者の声